

## News Release

# アクセンチュア調査：小売・製造業界の経営幹部の半数近くが RFID から高い ROI を期待

## サプライチェーンのメリットについては大半が同意するものの、導入予定および障壁への対応については意見が分かれる

アクセンチュア株式会社（本社：東京都港区、社長：村山徹）は、Accenture（NYSE: ACN、以下アクセンチュア）が実施した調査で、アジアにおける小売・製造業の経営幹部の半数近くが、無線 IC タグ（RFID：Radio Frequency Identification）から高い ROI（投資利益率）を期待しているということが判明したので、発表します。

今回の調査は、オーストラリア、中国、日本、韓国の経営幹部 100 人を対象としたものであり、回答者の 45%が RFID から高い ROI を期待していることが明らかになりました。最も楽観的だったのが韓国の経営幹部であり、回答者の 3 分の 2（72%）が投資効果を期待していました。しかし、日本の回答者は、RFID の価値についてまだ確信が持てないようで、投資効果が期待できると回答したのはわずか 16%に留まりました。また、中国の回答者の半数強（56%）、オーストラリアの回答者の 3 分の 1（36%）が、RFID から高い ROI が得られると期待しています。

回答者全体の 40%は、自社組織のみに導入するのではなく複数の組織にわたって導入した場合に、RFID によるメリットが最大になるであろうと述べています。オーストラリア、日本、韓国の回答者は、RFID のメリットが最も顕著に現れる部門として企業間のサプライチェーンを挙げましたが、中国の経営幹部の 50%は、RFID の価値が認められるのは自社の組織内だと回答しています。

アクセンチュアの製造・流通業グループのテクノロジー・イノベーション統括パートナー、ライル・ギンスバーグ（Lyle Ginsburg）は次のように述べています。「企業間サプライチェーンの重視は、普遍的とまでは言わなくとも幅広く認められているものであり、製造業者、流通業者、小売業者に対して、これまでにない期待とコラボレーションを約束するものです。」

回答者は、生産時の見通しと在庫の見通しが、RFID の使用による主要メリットであるとしています。経営幹部の半数以上が、出荷および受け取り時の生産性の向上（57%）、受注精度の向上（52%）、返品処理（52%）の各業務で RFID によるメリットが期待されると述べています。回答者の 3 分の 2（64%）は、RFID によって在庫管理に大きなメリットがもたらされると述べ、56%は原材料の受け取りの正確性を向上させると述べています。また、回答者の 57%は、ロットの追跡と管理は、RFID のメリットを受け分野になるだろうと回答しています。

アクセンチュアの製造・流通業グループのアジア・太平洋地域パートナー、ジョセフ・ミュラー（Josef Mueller）は、次のように述べています。「RFIDの導入は、たとえ強制ではなくても避けることはできないと考えられています。そのため、各国の経営幹部は、RFIDがいかにしてビジネスや競争能力を向上できるのかを検討しています。今後も地域による差異は見られるでしょうが、メリットの最大化を図る上での最優先部門としてサプライチェーンを重視することは、アジアの、そして世界の共通認識となっています。」

今回の調査からは、RFIDの導入に対する2つの最も大きな障壁として、費用と規格の不備が判明しました。回答者の3分の2強（70%）が、導入時の総費用が大きな障壁であるとしており、それに近い割合の回答者（67%）が、タグとリーダーの費用が障壁だとしています。それより若干少ない回答者（62%）が、規格の不備を挙げています。

地域別に見ると、RFIDの費用について最も懸念を抱えていたのは日本と韓国の経営幹部でした。日本の回答者の圧倒的多数（88%）が、タグとリーダーの価格が導入時の大きな障壁であると述べ、80%が導入コストを障壁として指摘しています。韓国の回答者についても同様に、80%がタグとリーダーの費用が主要な障壁であると述べており、68%は導入時の総費用が障壁だとしています。中国とオーストラリアの回答者は、導入コストと規格について同レベルで懸念しており、中国では回答者の68%が、オーストラリアでは64%が、両方とも大きな障壁であるとしています。

RFIDの導入状況については、全回答者の3分の1（34%）が、現在業務にRFIDを応用しているということです。回答者の5分の1未満（16%）はRFIDの実用化を検討中であり、1%は現在RFID導入プログラムを開始したところです。回答者の半数（51%）は、RFIDプログラムの導入について2007年以降の予定だと述べています。

「実装上の技術的な課題、セキュリティ、コンプライアンスの課題が解決した時点で、RFIDは大きくマーケットに浸透するでしょう。しかしそれはまだ序章です。書き換え可能タグが実装可能となった時点で、劇的な変化が起こると考えています。」とアクセンチュア株式会社のパートナー、稲垣雅久は述べています。

RFIDの導入に際して最も優先順位が高かったのが、在庫と倉庫の管理です。全体としては、回答者の4分の3強（79%）が在庫管理を最優先事項と位置付けており、僅差で倉庫管理（70%）、注文調達（60%）、在庫切れの処理（59%）がそれに続きます。とりわけ、日本と韓国の回答者については、RFIDの導入で最もメリットを受けるのが在庫管理だと考えているのは明らかで、日本の回答者の88%、韓国の回答者の92%が導入の最優先事項として挙げています。

## 調査方法

今回の調査は、2004年6月に電話インタビューの形式で行い、オーストラリア、中国、日本、韓国の製造・小売関連企業の100人の経営幹部を調査対象としました。彼らはRFID導入を決定する立場にある部門または地域の責任者、又はそれ以上の役職者です。

## アクセントチュアについて

アクセントチュアは、経営コンサルティング、テクノロジー・サービス、アウトソーシング・サービスを提供するグローバル企業です。私たちは、民間企業や官公庁のお客様がより高いビジネス・パフォーマンスを達成できるよう、お客様と協力して革新の実現に取り組んでいます。アクセントチュアは、各業界や業務プロセスに関する高度な専門知識、世界で蓄積された実績や資産をもとに、最適な人材、スキル、そしてテクノロジーを活用し、お客様の経営効率をさらに改善します。世界 48 カ国に約 9 万 5 千人の社員を擁するアクセントチュアは、2003 年 8 月 31 日を期末とする 2003 会計年度の売上高が、約 118 億 US ドルでした(2001 年 7 月 19 日 NYSE 上場、略号:ACN)。

アクセントチュアの詳細は

[www.accenture.com](http://www.accenture.com) を、

アクセントチュア株式会社の詳細は

[www.accenture.com/jp](http://www.accenture.com/jp) をご覧ください。